

なんだ・かんだ

◆ 日本にいることこそ競争力 ◆

トヨタ自動車は、国内生産台数300万台という下限を決め、国内の下請けメーカーが疲弊しない様に配慮しています。300万台を割ると競争力が阻害されるとの強い危機感があるということです。

豊田社長は、「車は1つの企業でつくるものではない。地域や社会が潤って初めてつくれる。」また、下から上がるボトムアップの提案。黙々と働き、環境変化に対応する組織の集積は海外では容易に作れない。「日本にいることこそ競争力」と語っています。

トヨタはリーマンショック後、5年で1兆5千億円に及ぶ原価改善を行っています。その司令塔になっているのが日本。豊田市を中心にハイブリッド車や燃料電池車の開発にトヨタや部品会社で数万人の雇用を維持しています。こうした雇用も300万台を維持してこそ生まれ、「歴史的にも意味を持つ数字」とトヨタの副社長が語っています。

豊田市は、元町工場1959年に初代「クラウン」の製造を始めてから半世紀が経ち、人口は3倍に膨らんでいます。

これに対し、先頃ゼネラルモーターズ(GM)の本社がある、自動車の町「デトロイト」が破綻してしまいました。GM等が安い労働力を求め、デトロイトからアメリカ南部や海外へ出て行ってしまい、人口がピークの1/3近くに減ってしまった為です。

またトヨタは、海外の関連会社の売上の6%前後を技術料として、日本のトヨタへ支払うルールがあるそうです。法人税率の高い日本にあえて資金を集めているわけです。

トヨタのこのような動きはまれな事で、アップルやグーグル等は、国境を越えて稼いだお金を、アイルランドなどのタックスヘイブンをとる国(低税率国)に集め、本国米国に納めるべき税金を免れていると非難されています。

一方先日の新聞に、ホンダが9月から埼玉で生産を始める新型「フィット」の海外部品調達率を現行の1割弱から2割にするという記事が出ていました。ホンダは、世界各地で、生産する車の部品は、現地調達を基本としているようですが、一部の部品で中国などに一括に大量発注してコストを下げる為だと言う事です。これにより、日本国内のサプライチェーンへの影響は避けられないだろうと言われていました。

トヨタ(国内生産率40%)は、ホンダ(30%)・日産(25%)と比べて、全生産台数における国内生産が一番多いのですが、そのトヨタにしても、2002年からリーマンショック後の3年間は別として、年間600から900万台へ生産を増やしていますが、国内の生産比率は60%から40%に激減しています。

この様な動きは、自動車業界だけでなく、様々な業界で起こっている事です。当然私どもの周りの企業でも同様の動きは始まっています。

「来年にはこの工場は閉めるから」と言われて、本当にその日を境に今まで毎月数百万円あった売上が「0」になるということは、1社だけではなく何社もあります。願わくば、大手製造業の工場を現状維持で国内に留め置いて、日本のこれ以上の衰退を止めて欲しいと思います。



8月23日は二十四節気の「処暑」。処暑とは、暑さが止む意味だそう。延々と続くかと思われた今年の暑さが、今週初め、にわかには和らぎ、寝苦しかった夜も、窓を開けて寝ると夜半に寒くて目を覚ますくらいでした。朝は、気温20度前半、湿度もなくからつとして、秋を思わせる陽気となっています。さて、ここへ来て来年4月からの消費税増税の話が頻出しています。税率の高い欧州ではどうだったのか疑問に思ったので、ちょっと調べてみると、比較的成長率が穏やかなドイツは、5年の間を開けて1%ずつ2回に分けて増税。上げたのは標準税率で、食料品(7%)など生活必需品の軽減税率はそのままで、経済に大きな影響がでませんでした。フランスは2%の引き上げ。ドイツと同じく標準税率のみ引き上げで、増税時の成長率は3.6%と高く、翌年成長率が少し落ちただけでした。イギリスも標準税率のみ1.5%引き上げ。高い成長率の時期に実施し、増税後は順調に景気上昇しました。

代表取締役 服部 敏一郎

消費税の増税

機能性塗料⑥

● 自己修復塗料 ●

既に製品として世の中に出ているものとして、ニッサンの「スクラッチシールド」という塗料で、ティアナ・シーマ・スカイラインなどに採用されている塗料があります。軟質の樹脂を配合したクリア塗装で、車の洗車の傷や浅いひっつき傷程度ならば、時間が経てば復元してしまう塗料です。

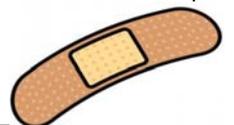
同様の塗料として、トヨタでも「セルフリストアリングコート」がレクサスに採用されています。

この様な塗料は、擦り傷などの浅い傷に対して自己修復しますが、深い傷に対しては修復されません。

先日、2mm程度の傷であれば、紫外線を当て、その後可視光を当てる事により数十秒で元通りに修復できるという材料が新聞発表されていました。

産業技術総合研究所で開発された材料で、ゼリー状の材料です。表面に傷が出来た材料に、10秒程度紫外線を当てると、その部分だけ流動性を持ち、傷を埋め表面が平滑化する。その後可視光を10秒ほど照射すると元の状態に戻り、表面の傷が修復される仕組みです。

しかしこの材料は硬度や靱性に課題があり、実用化されるのには10年程度かかると言われています。



■ リフォーム支援事業補助金一部終了 ■

88号でご紹介した、静岡県の住宅リフォームに付いての補助金の内、①高齢者型は、申込み予算額(3億7500万円)に達したため、平成25年8月8日(木曜日)17時をもって申込受付が終了となりました。

なお、②子育て型、③県産材型については、引続き申込を受付けておりますのでご利用ください。受付は、平成26年2月28日までで、申込受付は先着順となり、予算がなくなり次第、受付は終了となります。

リフォームが決まっている方は、取りあえず申請を終えてから、後から詳細を決め工事に取っかかり、工事を完了して平成26年3月16日までに書類を提出できればOKです。この期には是非お宅のリフォームをご一考下さい。

本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させて頂きます。

株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/